

魚津市定例記者会見 7月

日時：平成28年7月1日（金） 午後1時30分～

場所：市役所第一会議室

報道出席者：北日本新聞社、富山新聞社、北陸中日新聞社、読売新聞社、毎日新聞社、
北日本放送、NHK、NICE TV、ラジオミュー

市当局出席者：市長、副市長、教育長、企画総務部長、産業建設部長、民生部長、
企画政策課長

1. 市長からの報告・説明事項

(1) 6月市議会定例会を終えて

6月議会は、基本的には私の施政方針、公約の方向性にブレはないのかということ
を質す質問が多かったと思う。具体的な施策の展開はこれからになるが、7月か
らの新体制で施策の実現に向け、この夏を中心にしっかりと検討を進めてまいりたい。

(2) 第67回全国植樹祭（長野大会）を視察して

長野県知事から富山県知事へ引き継ぎの式が行われた。今大会は森と木の文化を
全国に発信するという事で、プロローグからエピローグまで伝統文化等をしっかり
アピールする素晴らしい大会だったという印象である。式典会場はエムウエーブ
（屋内）だったので大会運営は安心だという面と、反面では空がみえるほう（屋外）
がいいという声もきいた。

来年は魚津桃山運動公園で式典があることをイメージすると、魚津は森・川・海
が短い距離の中にダイナミックな景観で広がっているので、植樹祭の会場としては
本当にすばらしいロケーションだと思っている。ぜひ、この魚津を全国にしっかり
アピールできる大会にしたいという決意を新たにしたい。今後、県としっかり協議し
ながら準備を進めていきたい。

(3) 参議院議員選挙の投票率向上に向けた取り組みのお知らせ

投票率をぜひ向上させたいということで、2つの取り組みをしている。

1つは、商業施設内に期日前投票所を増設するもので、アピタ魚津店2Fのイベ
ントスペースに7/2（土）と7/3（日）の9時から20時まで投票所を設ける。もう
1つは、今回から（選挙権が）18歳以上に拡大されたので、高校生が出演する選
挙啓発CMを作成し、6/22から放送・配信をしている。ぜひ多くの市民の方に知
っていただき、若い方の投票に結びついていけばと思っている。魚津市で選挙啓発
CMに高校生が出演するのは初めて。ご協力いただいたのは、魚津工業高校の生徒
の皆さんで「選挙へ行こう！」のタイトルで4パターンある。インターネットはま
いふれ魚津または市HPの参議院通常選挙専用ページで、テレビはNICE TV

で1日6回、7/10の投票日当日まで見る事ができる。

ご存知のとおり、前2回の国政選挙(衆・参)は」両方とも県全体から見ると(魚津市の投票率は)やや低い状況にあるので、少しでも向上させたいという思いである。

(4) 東洋経済新報社が公表した「住みよさランキング」で魚津市は全国13位に

昨年は11位だったので、順位を2つ下げたことになるが、その前の年が15位、もう一つ前の年は20位ということでここしばらくは10位台を推移している状況にある。砺波市が初の(全国)ベスト3で話題になったが、県内では魚津は砺波に次いで2番目という状況で変わっていない。詳しい要因は分からないが、評価項目の中の安心度が昨年の47位から138位になったことが相対的に響いたのではと推測される。安心度の中身のうち、医療機関や介護施設の人口当たり密度は(魚津は)結構高いので順位が落ちる要因ではなく、出生数の指標が影響しているのではと推測している。そういった意味で出生数を少しでも増やす取組が喫緊の課題と感じた次第である。

(5) 7/9(土)に大町・村木・上野方・本江統合小学校校舎新築事業安全祈願祭を執り行う

いよいよ新築工事が始まるということで、7/9(土)9時から安全祈願祭を執り行う。本体工事は7月中にとりかかる予定。今年度は、正面玄関など一部を取り壊し、新教室棟の完成を見込んでいる。29年度は現教室棟を取り壊し、管理特別棟を完成させていく。30年4月には新小学校として開校する。工事の安全に配慮しながらしっかりと整備を進めていきたい。

2. 質疑応答での市からの説明内容

「魚津駅乗降調査に関して」

《記者からの質問》

魚津駅乗降者数の調査結果に対する見解と今後の対策をお聞かせ願いたい。JR時代と比較し、昨年の乗降調査と同じような結果が出ている。北陸新幹線開業の影響という解釈になるか。

《回答》

ハード面とソフト面の対策があると思っている。

ソフト面は、観光プランに絡んでくる。今年度、観光振興計画の見直しを進めているが、その中で、地元の人も含め歩いて楽しめるまちづくりをどうやって進めていくかを考えなければならないかと。来訪者ばかりでなく、魚津に住む人もまちなかを歩いて楽しめるようなことを観光振興計画の中に入れていければと思っている。

ハード面は、6月議会でも駅及び駅周辺整備の質問があったが、新幹線駅とのア

クセスの改善やあいの風鉄道と地鉄との乗り換え利便性向上など、駅をどうやって利用してもらうか、使いやすい駅にするにはどうするのかという観点で進めていかなければならない。交通事業者とも相談して取り組んでいきたい。

《記者からの質問》

魚津駅整備の進捗状況はどのようなか。

《回答》

駅整備及び駅西広場の拡張を進めるには都市計画決定を行わなければならないので、その前段として地鉄やあいの風鉄道など鉄道事業者と細部の打ち合わせをして都市計画決定の内容をまとめる段階にきている。

《記者からの質問》

鉄道利用者が2割ほど減少しており、他に観光入込数や宿泊客も若干減っていると思われるが、特急列車がなくなり、新幹線駅が隣の市にできた割には健闘していると思われているか、それとも相当深刻に受け止めなければいけない数字なのか。

《回答》

正確な数字の把握はしていないが、全体として宿泊そのものは微減だが施設によって増減に開きがあることが分かっている。新幹線駅を目的に旅行する人はいないのでぜひここを目的地にしてもらえよう取組をしたいと思っている。宿泊施設、観光施設それぞれ単独で（誘客）は限界があると感じており、それらをどうやって結び付けていくかが課題だと思っている。具体的にはまちなかと中山間地とで回遊してもらおうプラン（モデルコース）をしっかりと作っていかないと示せない。楽しみ方を具体的にイメージして提示していくことが必要。そのためには、それぞれに関わる人が主体的にプランづくりにのってもらわないといけないので、そのための話し合いの場づくりが必要だと、以前から言っている。観光振興計画の見直しのなかで、ぜひそういった関係者の参加を求めたいと思っている。ある意味、魚津の新しい楽しみ方を具体的に示してアピールし、魚津だけで足りなければ他の地域とも連携したプランを示すなど、そこまでを視野に入れてやっていきたい。そうすることで、すぐにロットで観光客が増えるということはないだろうが、魚津そのものを見つめ直してもらおうきっかけになると思うので着実にやりたい。

《記者からの質問》

それは、観光施設などを線で結ぶイメージか。

《回答》

そのとおり。実際にどうやって移動してもらうかは検討しなければならないが、セットで示していく必要はあると思っている。県のDMOのマーケティング部長の話聞いたが、スポットを売るのではなくまちを売ると話していた。そういう戦略が必要なのではないかと思う。魚津ってどんなところ、と聞かれた時に伝えられるような、そういうメッセージ性が必要なのではないかと感じた。

《記者からの質問》

魚津駅の列車到着メロディを募集しているが、調べたところによると市民参加し

ているのは魚津市だけだ。市民から募集をすると決めた背景、またマイルール意識の高揚を図る狙いをお聞かせ願いたい。

《回答》

魚津らしいもの、という視点は必要だろうということでコンセプトはせりこみ蝶六に決めた。誰かに（作曲を）頼むのは簡単なことかもしれないが、蝶六に対しては市民の思いもあるのでぜひ市民参加という形でやったほうが良いということで決めた。なじみのあるメロディが到着メロディになることで、この駅を守っていかなければならないという気持ちにもなるだろう。

「魚津市地域おこし協力隊について」

《記者からの質問》

市内13地区ある中で、大町まちづくりコーディネーターの募集になった理由は。また、大町地区は昨年1年かけてまちづくりコーディネーターの養成に取り組み、今年度は経田地区で同様に行われている流れからすると、地域おこし協力隊の募集も連動していくのか。

《回答》

もともと大町に限定していたわけではなく、各地区振興会等に（地域おこし協力隊受け入れの）意向調査をした結果である。今後、活動状況をみて他の地区でも受け入れを検討したい。外部から入ってもらうことで活性化を図っていきたい。

《記者からの質問》

受け入れ地区と態勢が整ってから、という形を今後も続けていくのか。

《回答》

他の事例を聞くと、地域おこし協力隊をたくさん受け入れて、中には合わずに帰ってしまう人もいるらしい。今後、例えば（地域おこし協力隊員が）地域協働課に所属して各地域を廻ることも考えられるが、今回は大町地区がぜひという意向であり、この形になった。

課題と取組がはっきりしている地区が、まず活用したということになる。

地域おこしだけでなく、人口減対策という側面があるのは事実。今後、どのように活用するかが検討課題。どこまで地域に刺激を与えられるかが重要で、地域の人のやる気を促していけるような、そういう役割に期待している。

大町地区の大きな課題は住民の高齢化で、なんとか若者を増やそうとしている。課題解決のきっかけにもつながれば良いと思っている。

「たてもん ユネスコ世界文化遺産登録に向けて」

《記者からの質問》

8月のたてもんまつりは、ユネスコ世界文化遺産登録のプレになると思われる。今は、まつり期間に市内宿泊施設がパンクするような事態にはなっていないだろうが、登録となった場合、事態は変わってくると思う。市長は、息の長い観光の取り

組みが必要と言ってきたが、登録後を予想した一点集中型の取り組みは予定していないのか。

《回答》

(たてもん) 保存会とも話をしなければならないが、まつりそのものの展開は変わらないだろうと思う。無形文化遺産に登録の理由は、人口が減少する中でまつりを維持していく力が衰退していくから無形文化遺産になるのだと思うので、そういう意味ではたてもん行事を伝統文化として維持していくための仕組みをどう作るかというまず本来の話がある。地域の人で支えられないのなら、地域の外の人を借りてでもやろうと。そういう意味ではたてもん行事の応援団の範囲を地域から市内全域あるいは市外、場合によっては海外に拡げるのが私のイメージだ。まつりの規模を大きくして観光客をもっと呼び込もうというのはちょっと違う。ただ、このまつりを活かして地元の人が自信を持てるまちにするきっかけにしたい、と思う。この貴重な伝統文化を維持していくシステム、持続可能なものをどうやって作るかが重要だ。それに付随するものとして、まつりの応援団が増え、そして観光客がふえればいいなど。そういう文脈だ。

まつりの質というか中身が注目されることになると思う。まつりを維持するためにどんな苦労があるのか分かるようなことをしないといけないし、できればそこに参加するような仕組みにしていきたい。参加する応援団が増えていけば結果的には観光振興にも結び付いてくると思っている。

《記者からの質問》

台湾インバウンドのたてもんまつり観光は今年が最初のヤマなのか。来るなら規模（人数）はどのくらいか。

《回答》

台湾から観光に来る感触は得ているが、まつりを見るだけなのか、それとも参加するのは意向を調査中であり、まだ決まっていない。インバウンド観光の概要が明らかになり次第改めてお知らせしたい。